



—美濃病院看護局の取り組み—

患者さんが「ほっとできる」

あたたかい看護を届けたい

美濃市立美濃病院 看護局長 山中多美子

### 『チーム医療の時代』

医療は年々、高度化、複雑化し、医療現場で働く看護師にも、高い専門性が求められるようになってきました。

こうした状況に合わせて美濃病院看護局では、専門的な看護ケアを提供するため、専門領域ごとにチームを作っています。

各チームでは、その領域の研修や学会へ積極的に参加し、常に最先端の看護のあり方を学び、美濃病院に適したケアに反映させています。

たとえば、「褥瘡（じよくそう）床ずれのこと）・スキンケア」チームは、長期にわたって寝たきりの状態にある患者さんの褥瘡やオムツかぶれなどのトラブル、人工肛門のケアなどを担当しており、すでに発生した問題の解決だけでなく、その予防策についても検討します。

また、チームが作成した予防プランは、院内

に情報発信され、すべての部署で実践できるようにしています。

チームはこのほかにも、「感染対策」「嚥下（えんげ）飲み込み）リハビリテーション」「自立支援」など計7チームがあり、同様に活動を進めています。

さらに、これらのチームは、病院全体で進めるチーム医療と連携しており、看護師は、患者さんと患者さんを取り巻く医師をはじめとするさまざまな職種の人々との連携の要として、病院のチーム医療そのものを支える重要な役割を担っています。

### 『地域の医療サービスと手をつなぐ』

看護局が力を入れていることの一つに、地域医療、地域福祉との連携があります。

患者さんによっては、「病気は回復しても、入

美濃病院では私たちと共に、あたたかい看護を届けられる看護師（常勤）を募集しています。  
詳しくは、美濃病院事務局（☎33-1221）まで



院前と同じような生活に戻るのには難しい」という場合があります。このような患者さんに対し、美濃病院では、病気のさらなる回復と生活支援を、地域の医療機関や福祉サービス事業者と連携して行っています。

こうした連携をより進めるため看護局では、近隣の福祉施設・福祉サービス事業者などと情報交換を目的とした学習会を定期的に開催しています。時には、美濃病院の看護師が施設を訪問し、福祉施設でのケアの現状を学ぶこともあります。

このような実践を続けながら、地域福祉を支える人々と顔が見える関係を作り、地域の方々と共に、患者さん一人一人の健康と生活の支援を行いたいと考えています。

### 「やりがいを持って働ける 看護師を育てる」

看護師免許を取得したからといって即一人前の看護師になれるわけではありません。日々の看護業務による知識や技能の習得、そして継続した学習なしには、良い看護ケアはできません。そのため美濃病院では、新人看護師に対し、職員同士が共に支え合いながら成長することを目指した教育プログラムを展開しています。

さらに、新人教育だけでなく、すべての看護師がやりがいを持って働けるよう、知識や技術、管理能力などの習熟度を評価する「クリニカルラダー（看護実践能力評価）」を導入し、看護師の成長に合わせた教育を行っています。

また、看護の道に進もうと考える中高生や大学、専門学生に対する「職場体験」の受け入れにも積極的に取り組んでおり、今年度も多くの学生が、看護職の素晴らしさを体験しました。

### 「患者さんが、笑顔で過ごすこと できる看護を目指して」

美濃病院看護局が最も大切にしていることは、一人一人の看護師が、『患者さんを大切に思い、ほっとできるようなあたたかい看護』を届けることです。

「ちょっとした言葉づかいや触れる手などふとした瞬間に、患者さんが「あたたかさ」を感じ、笑顔で過ごすことができること

これが、私たち看護師の願いでもあります。そのような看護を目指して、これからも日々努力を重ねていきたいと思えます。